久村町内会
くむら新聞
横須賀市久村451
NO.５４号
2023年１２月１５日
【発行責任者】
浅葉　清志
【編集者】
【大内　栄】

生きがいの家クラブ発表会/作品展示会

～災害時の避難所運営マニュアル訓練～（久里浜地区合同）

作品展示会

11月12日生きがいの家傘下の手芸サークルをはじめとする９つのサークルと子供会及び会員の趣味、趣向で作られた作品は、会館の壁面や飾り台に所狭しとばかり並べられていた。会場が普段の様子から様変わり、しばし呆然と見惚れてしまうほど力作ぞろい、しばらく眺めていたが、手にはカメラを取り出し撮影をはじめていた。この素晴らしい伝統はコロナ禍で４年ぶりとなるが、展示会をいつまでも続けられ『久村文化祭』（仮称）と命名し、眠っている作品を披露していただき、町内交流の場として続けて欲しいものです。

サークル活動実技発表会

午後の部はサークル活動（詩吟・カラオケ会・社交ダンス）の実技発表会が行われた。

初めに、浅葉会長あいさつ後「シニア川柳」が数句詠みあげられ、会場からの笑いを誘い和やかな雰囲気下、伊藤副会長の司会で、日頃、同町内会館で鍛えあげた喉、ダンスにおいては衣装をまとい（ブルース、ワルツ、ルンバ）等発表会に合わせ鍛錬を重ねて来た成果が伺えました。

実技発表が終わり「みんなの健康体操」のインストラクター「石川克彦さん」の身体ほぐしの体操後、伊藤副会長の閉会のあいさつで終了となりました。

実技発表会の様子

終了後の健康体操

参加者全員にて記念撮影

『避難所設営訓練』
～避難所運営マニュアル訓練～

12月3日（日）久里浜地区連合町内会『八幡町内会・佐原町内会・ガーデンライフ久里浜自治会・クリオ久里浜自治会・久村町内会』の5地区町内会・自治会は、災害時に久里浜中学校へ避難した場合、どのように運営していくか、誰かが運営してくれるではなく避難した人たちで運営していくことを知っていただくことが目的です。

『久村町内会会員の集合場所』

久里浜２丁目第２公園に９時に集合した参加人数は34名、９時10分町内会防災部長より、本日の「訓練要旨」説明を受け、参加者一行は、久里浜中学校に向け徒歩にて移動しました。

久村町内会から３４名参加

坂道を下り久里浜中学校へ

七五三 御瀧神社

11月3日（日）２児の子を持つご両親が御瀧神社において子供の成長を願い七五三の祈祷が行われました。

七五三の由来は平安時代に行われた3歳「髪置き」5歳「袴着」7歳の「帯解き」の儀式と言われています。昔は子供の死亡率が高かったためこのような節目に成長を祝い、子供の長寿と幸福を祈願しました。医療が発達した現在でも、子供を思う親心に変わりはなく現在まで受け継がれてきました。

神殿にて七五三の儀式

震災時避難とは

震災時に自宅が倒壊するなどして住居を失った人や自宅での生活に危険を伴う人が一時的に避難生活をおくる場所であるとともに自宅で避難生活（在宅避難）をおくる人への物資配給など、地域への生活支援の拠点となる施設です。横須賀市では、施設の耐震性や一定規模以上の敷地を有する市立小中学校指定しています。

なお、震災時避難所には高齢者、障害者、妊婦、幼児等のうち、特別な配慮を必要とする人たちも避難することが予想されることから、一時福祉避難所を併設します。

避難所運営マニュアル訓練

横須賀市では震災時運営マニュアルを作成しております。『運営マニュアル』はこと細かく細分化され、今回訓練に参加した５地区の町内会・自治会は運営委員長をトップに５つの活動班が地区ごとに振り分けて担当し、（①総務班②情報・広報班③食料・物資班④環境・衛生班⑤救護・福祉班）担務内容を避難訓練に参加した人たちに説明していただきました。この訓練は１度や２度の訓練で身につくわけではなく、**繰り返し実施**していくことが重要となります。

今回の参加者は『１３０人』

訓練参加者校庭に集合

野外授業にひと役！
『どきどき町たんけん』
明浜小学校2年生90名

11月14日（火）に明浜小学校２年生の１組から３組までの生徒90人と引率の先生方４人が生活科の授業「どきどき町たんけん」で久村を探検しに来ました。この授業の目的は、地域の場所と自分との関わりや地域の人に親しみをもちながら生活することを知るためのものです。久村町内会会長と伊藤副会長が御瀧神社で出迎え、久村の歴史（むかしの様子）を寸劇を交えながら説明し、子供たちからの多くの質問に受け答えをする野外授業が行われました。

質問に受け答えする浅葉会長

御瀧神社にて久村の歴史について寸劇を交えながら説明する浅葉会長・伊藤副会長